

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.11 2009 6/1

「もっと」橋の話をしよう!





江戸時代の末期に描かれた『浪花百景』より、(手前から)難波橋・天神橋・天満橋が並ぶ「三大橋」。(大阪城天守閣所蔵)

平塚桂(以下、桂)「島民」での連載も10回を超え、我々もかなり島の橋とランデヴーを繰り返しました。

たかきみ江(以下、み江) たしかに橋はいろいろ見たけども、なんでいきなりフランス語なんですか？

桂 中之島は戦前あたり、パリのシテ島を意識してつくられたそう。ということとランデヴーをキーワードに、中之島の橋の魅力の説明してみようかな、と。

み江 強引ですね…一応乗りますけど。

桂 中之島の橋は、足元はがっしり固めて橋上は見通しよく、という形式が定番。だから川や風景とランデヴー♥

み江 島の橋はアーチ橋とか、やさしい外観の橋が多くて、歩いて楽しめますね。橋詰に溜まり場をつくったりして、歩行者ともランデヴー♥
桂 ビジュアルのよさは、技術者とデザイナーのランデヴー♥のたまもの。鋼アーチに挑んだ天神橋や堂島大橋、さらに可動堰とセットの水晶橋や錦橋と、技術は高度でも橋の姿は愛らしい。

み江 才色兼備ですよ。
桂 建物とセットでデザインしたり、街にさりげなくなじませてます。
み江 古い絵はがきの写真を見ても、橋だけじゃなくて建物や街並みも一緒に映ってるもんね。

桂 江戸時代の錦絵でも橋ネタは右ページの

「三大橋」以外にも色々バリエーション豊富。佐伯祐三とか池田蓬邨みたいな洋画家のモチーフになったりと、アートともランデヴー♥

み江 いまもスケッチしたり写真を撮ったりしてる人、いっぱいいますね。

桂 一方で、橋自身がそんなに押し出しが強いわけではなく、むしろ控えめ。

み江 気付いたら橋を渡ってた、というくらい

橋のたもとにライオンが登場したり、唐突なのはご愛嬌。

桂 目指せ！シテ島で頑張っただけに、洋風のデザインの橋が多く見えるけど、よく見ると天神橋の照明を下から見上げると天神祭に由来する梅鉢模様が入ってたり、和洋ランデヴー♥ですよ。

み江 そこは普通に和洋折衷って言うてくだ

橋を渡らない 人生なんて！

中之島には堂島川・土佐堀川あわせて20以上の橋が架かっている。そのどれもがぼんやりと渡ってしまえば惜しい個性に溢れている。なぜ中之島はかくも橋コンシヤスな街となったのか。毎月の連載でもおなじみ、ほむ企画のお二人に聞いてみよう。

い街路と一体化してるよね。

桂 意識して見ないと、サラッと流しちゃうんですよ。

み江 中之島の橋って、基本的には主役じゃなくて背景ですよ。

桂 しかし華がある。難波橋からバラ園に至る階段なんて舞台装置みたい。

み江 バラに負けないエレガンスがあるよね。

さ。

桂 そして桃山時代に秀吉さんがつくった堀割りや元禄時代の商都の面影を今に伝える古今ランデヴー♥

み江 意味わからないって！

ほむきかく たかきみ江、平塚桂の2人による建築ライターユニット。「カーサ・ブルータス」ほかの雑誌にも執筆。けんちく家たいけつや「けんちく雑誌ガイド」など独断と偏見に満ちたコンテンツの溢れるHPも必見。http://ponnu.tv/

hashidas 橋用語の基礎知識

【アーチ あーち】

写真の水晶橋をはじめ淀屋橋と大江橋、難波橋や天神橋など、島の橋といえばアーチ橋が主流。特に「上路式アーチ橋」と呼ばれる桁下側にアーチ式の構造体を設けた形式が多い。これは「市街地の橋梁としては美観上好ましい」(『第一次大阪都市計画事業誌』より)と、地盤の弱い中之島には向かない構造にも関わらず工費をかけてでも採用していたため。アーチは島の橋梁デザインの「必勝パターン」だったのだ。





主演男優賞
難波橋



アンチ・
エイジング大賞
桜流橋



オレ流で賞
堂島大橋



合コンで
モテそうで賞
水晶橋

中之島で最も華やかな橋はたぶんこの橋。トレードマークはバタクさいライオン像。これでもかとりビートされる大阪市章のロゴに、バラ園に降り立つ大ぶりな階段。玉を抱くトロフィーのような塔。レッドカーペットも映えそうなゴージャス舞台装置としてのコテコテの魅力に橋界のアカデミー賞を送りたい(勝手に)。



なにわばし 1915年完成の中之島では現存最古の橋。市電の延伸を機に、意匠設計を建築家に依頼するなど力を入れて造られた。全長187.5m。第2号参照。

エメラルドグリーンの橋桁の鮮やかさに反して今年で80歳の喜寿を迎えるという。外見と年齢がまったく結びつかないアンチ・エイジングの星。戦後に入り阪神高速に上空からプレッシャーをかけられたり、1980年の改装では大阪市中央公会堂に合わせて洋風の照明灯を付けたり、苦勞人っぽいところも橋梁界の森光的存在。



ほこながしばし 1929年完成。桁下のカーブが美しい。高欄や照明灯のオリジナルは戦時中の金属供出で撤去。全長98.2m。第4号参照。

両岸から張り出す橋台は、噴水(?)広場付きの古典的なコンクリートアーチ。橋の中央は鋼材もリベットもむき出しの即物的な鋼アーチ。強引な折衷が妙に心地よいフシギな橋。しかし独創とは新技術と伝統の融合が基本。そう、みそラーメンや明太子パスタだって、そんなオレ流の手料理から生まれたのだ。



どうじまおおはし 1927年完成。非タイド下路アーチ橋(構造的に不利で、すぐ廃れた)としては現存する最古のもの。全長76.12m。第5号参照。

中之島で一番目立つ、というわけではないが、島の中心部を陣取る絶妙なポジショニングと万人ウケする優しい外見で、小柄ながら絵はがきにもしばしば登場する人気もの。可動堰としてマメに働きつつも、汗くささを見せないスタイリッシュさもあわせ持つ、女子ウケ要素満載のモテ橋。



すいしょうばし 堂島川可動堰として1929年完成。1982年の改装時に法律的に橋と認定され通称だった水晶橋が正式名称に。全長72.33m。本誌第3号参照。

早稲田大学教授・
佐々木 葉先生に聞く

「ワタシのMVB」

Most Valuable Bridge

MVB in 中之島

中之島の橋たちはそれぞれにキャラがある。そんな橋たちを比べてみるとどうなるか。一番リッチなのは? 一番カッコイイのは? 独断と偏見による橋アワード、開催してみました。

審査員 / まむ企画

中之島の橋の魅力、大阪の橋と景観との関係に詳しい佐々木葉先生にうかがった。東京在住だが、心は島民。「中之島は戦前のアーバンデザインのホームラン王だよ。よく見てきなさい、と学生に言ってるんです」と日々宣伝活動(?)をしているとか。

さて佐々木先生、そのホームラン王としての魅力とは? 「淀屋橋と大江橋のように2つの橋をセットにしてデザインコンペを開催したり、建物や橋単独ではなく要素を複合せ、場の関係性まで考えられているところがすごいです。なるほど。単に美しいモノを造るだけではなく、人々が歩いたり、集ったりして楽しむ場をつくるという発想か。

戦前の名だたる橋梁デザインの背景には堀威夫や元良勲(P6)といった名技術者の存在があった。P10でも紹介する大阪市橋梁担当は、戦後に入り全国的に橋梁デザインの外注が一般化する中で市の技術者による設計が続けられた橋のエキスパートチーム。「大阪の橋は最近のものでも面白いものが多い。それは市役所に良いエンジニアがいるからなんです」と佐々木先生も証言。「大阪の橋」や「八百八橋物語」の著者としても知られる松村博氏など、歴代の橋梁課長は橋梁デザイン界のツワモノぞろい。橋の研究者や技術者の世界でも一目置かれているという。

ちなみに佐々木先生のMVBは天神橋。しかも「日本で1番か、少なくとも3本の指に入るほど」と大絶賛なのだ。「ちょっとマニアックな視点ですが、橋は桁裏が面白いんです。水漏れを防ぐ工夫や水道やガス管の納め方などにエンジニアの苦勞が見えるので。天神橋も、裏側からアーチの組み方を見るとすごいですよ。川と橋が直交してないので橋の構造上は面倒で、ねじれた格好になる可能性もあるんですが、アーチや桁の配置を工夫して何気なく普通の形に見せてます」。

なお、他のMVBの選定と佐々木先生は関係ありません、念のため。

ハデさはないが、隙のないスタイリッシュな姿で中之島のトップを切る。角度の異なる2本の川に真っ直ぐな橋を架けるため桁裏に技を駆使しているが、それを表に出さないクールさが身上。野球で言えばシュアな打撃のリードオフマン的存在。イチローが近代野球の申し子となったように、一発は無くともMVBは取れる!



てんじんばし 1934年完成の鋼アーチ橋。中之島東端をかすめ2つの川を一気に渡る。剣先公園に下りるスロープは1987年に新設。全長210.7m。第7号参照。



リードオフ・
ブリッジ賞
天神橋



ラスト・
ダンジョン賞
越中橋

階段を何段も上り下りしないと渡れないアンチ・バリアフリーの歩行者専用橋。100m西側には土佐堀橋があるため、存在意義がそもそも謎。しかしその高さゆえに橋上の眺めは抜群。周辺の倉庫街の風景に似かわいすトイズムあふれる姿も見ようによってはカッコイイ。真の島民になるためには、クリアしておきたい橋!



えっちゅうばし 1929年完成。1964年のかさ上げで幅が7.5mから3.8mに削減され歩行者専用。江戸時代からある橋なのだが…。全長71.01m。第8号参照。



ベスト・
ジーンスト賞
錦橋

hashidas 橋用語の基礎知識

【可動堰 かどうぜき】

堂島川に架かる水晶橋と、土佐堀川の錦橋。シマの南北に架かる2つのオシャレな歩道橋だが、本来の使命は河川浄化を目的とする可動堰。川をせき止め水量を調整する「テンターゲート」と呼ばれる回転式のゲートが、アーチの内側に仕込まれている。武骨な機械を人目にさらすわけにはイカン! と汗を見せずにサラリと仕事するダンディズム、見習いたいものです。→アーチの下にこっそり隠れる可動堰。よく見ないと分かりません。



hashidas 橋用語の基礎知識

【親柱 おやばしら】

橋の四隅に立つ柱。橋の玄関口となるがゆえ、橋にふさわしい意匠が凝らされている。ライオンが鎮座する難波橋や灯籠型の鉾流橋など、守り神的なアイテムを持つケース多し。親柱に必ず取り付けられるのが橋の表札にあたる橋名板。市内の橋の場合、橋名は漢字とひらがなをそれぞれ楷書・草書で記され、四隅で変化をつけられているそう。→中央公会堂へのプロムナード橋樫木橋のたもとには、これまでの歴代の親柱が残されている。



宗兵蔵 featuring 難波橋



そう・ひょうぞう 建築家。宮内省や海軍などで建築を手がけ1913年大阪で独立。作品に生駒ビルディングなど。

「高欄や階段のデザインには力を入れました」

「建築家が橋の意匠を手がけたケースは、大阪では最初ですね。土木構造物のデザインは、難しくはなかったですか？」

そうですね。でも技術的な部分は大阪市電気鉄道部が担当しました。それに僕は若いころ東京市に在籍して淀橋浄水場のポンプ室を設計したり、海軍で軍事施設を手がけたりしていたので抵抗なくできたのかもしれないな。橋を設計する直前にも、柴島浄水場第一配水ポンプ室（現・大阪市水道記念館）の仕事をしましたね。」

柴島浄水場とこの橋に共通するのが、大阪市章の「みおつくし」のマークです。

「みおつくし」は万葉集に歌われたほど伝統のあるモチーフです。石造りの部分の装飾は西洋の古典建築によく使われる手法を踏襲していますが、高欄に組み込んだのは独特で面白いでしょ？ 公園と連続する階段や照明灯にも力を入れました。

難波橋は、市民から人気ある橋の第一位となったそうです。

僕は多いときに20人くらい所員を抱えてオフィスビルをたくさん造ったけど、実は現存するものは少ないんだ。そんな中で、独立初期に手がけた難波橋がいまも使われ愛されているのは、ありがたいですね。

巨匠が語る 「ワシンの橋」

「作品と呼んでも過言ではないほど、中之島の橋には華がある。」

そこにはどんな意図が込められていたのだろうか？

設計を担当した技術者たちに（妄想）インタビューしてみよう。

取材（架せ）／ぼむ企画 イラスト／網本武雄 取材協力／吉川真（大阪工業大学教授）



もとら・いさお 後の京大で武田五一の指導を受け1924年卒業後、大阪市の技師として橋梁の意匠設計に携わる。



ほり・たけお 1923年に大阪府に奉職し橋梁課長等を歴任。200余の橋梁計画に携わる。1955～63年大阪府助役。

「シマの橋は、技術とデザインのコラボレーション」

「お二人は多くのシマの橋を共同作業で設計されたそうですが。」

堀 技術的なところは私、美観的なところは元良くんが担当しました。橋のタイプを決めるところから一緒にやっていたんです。

元良 堀さんなど構造技師の方がデザインや景観に興味を持って意欲的に取り組んでくれたので助かりました。普通は技術先行で進められてしまうのです。

「この天神橋は、特に技術とデザインの名コラボという印象ですが。」

堀 最初は鉄筋コンクリートで考えてたんですけど、地盤が思わしくないので鋼アーチに変えたんです。

元良 変更することになって結果的にはよかったと思います。軽快な印象になって。

堀 2つの川にアーチを一直線に架けるのはタフな仕事でした。

元良 我々が意図したのはのびやかな水平方向のデザイン。高層建築が並ぶ今みたいなシマの風景になることを見越した上での計画なんです。



堀威夫・元良勲 featuring 天神橋

「大大阪の橋たるもの、美しさも重要」

「建築家として大阪市の橋に関わったのはなぜですか？」

大阪市の依頼を受けたんです。市の技師として私の弟子の元良勲がいたので、彼に実作業は任せ意匠指導という立場で関わってました。京大で長いこと教鞭を執り多くの弟子が育ちましたから、建築でも何でも、どんな若い

のに任せてたんです。

「淀屋橋・大江橋のデザインコンペにも才能発掘の意図がありそうですね。」

あれは市の橋梁に関わっての初

hashidas 橋用語の基礎知識

【桁下 けたした】

シマの橋の悩みの種といえば、地下水の汲み上げに由来する地盤沈下。そのため高度経済成長期には渡辺橋や肥後橋、田養橋などが架け替えられ、筑前橋や常安橋、玉江橋では橋桁の高さを数m上げる「かさ上げ」工事が行われた。船の通行ができなくなったり、桁下に余裕がなく妙にバランスが悪かったりするもの、やはり地盤沈下の影響なのだ。キビシ〜。→とある年後の淀屋橋。桁下、確かに低いっす。



hashidas 橋用語の基礎知識

【景観配慮 けいかんはいりよ】

高度経済成長期の闇雲な開発に対する反省の念を含め、近年は景観への配慮が重視されている橋梁界。しかしそんな傾向も100年前に先取りしていたのがシマの橋。公園と一体としてデザインされた難波橋や、スリムな鋼アーチでシマの東端にのびやかに広がる天神橋、案を公募し2つの橋をセットでデザインされた淀屋橋と大江橋がその代表。名建築との調和もバッチリ。



ただた・ごいち 建築家。後の京大建築学科の初代教授。戦前の関西建築界に影響を及ぼした。作品に京都市役所など。

武田五一 featuring 淀屋橋 大江橋



シマの橋

クロニクル

市電さまのお通りで、プロテイン注入、マッチョな橋へ。

1903年に開通した大阪の市電。大正中期までに市電を走らせる目的でつくられ改築された橋は実に50を超える。その代表が現在の難波橋。ライオンが鎮座する華麗な橋は市電事業を象徴するものだった。他にも中之島の淀屋橋、渡辺橋、肥後橋、土佐堀橋、船津橋、端建蔵橋なども市電事業をきっかけとする架け替えがあった。



大正4年完成の難波橋。市電の敷設に伴い架け替えられた。

ルーツはやっぱり太閤さん。「大阪名物=橋」の法則誕生。

大阪の都市計画の基盤をつくったのは、かの豊臣秀吉。河川事業もその一環で、大坂城の外堀にあたる東横堀川の開削などあわせて、多くの橋が架けられたと言われている。そして水陸運を軸とする交易の接点として橋は大阪のシンボルに。中之島界隈でも桃山時代に天満橋や天神橋、難波橋が架けられたとも言われているが、詳細は定かではない。

シマの歴史や、その当時起きた事件、そして橋にまつわる「傾向と対策」を時代ごとにチェック。橋を見れば中之島の歴史がわかる、かも？

写真提供／大阪市建設局道路部 文／ぼむ企画

奈良〜平安時代	天平7年(735)頃	行基 難波橋を架ける。(ただし伝説。淀川が舟運の生命線に。)
安土桃山時代	天正13年(1585)頃	●東横堀川の開削。 ●天満橋、難波橋、天神橋などが架けられる。
江戸時代	元和5年(1619)頃 寛文元年(1661)頃 元禄年間	●流屋常安、中之島を開拓。 ●難波橋、天神橋などが公儀橋に。 ●堂島開発に伴い大江橋、渡辺橋、田養橋、玉江橋、船津橋を架設。
明治時代	明治3年(1870) 明治9年(1876) 明治10年(1877)頃 明治18年(1885) 明治21年(1888) 明治36年(1903) 明治41年(1908) 明治42年(1909) 明治43年(1910) 明治44年(1911)	●高麗橋が日本で三番目の鉄橋に。 ●難波橋(北側)が鉄橋になる。 ●堂島大橋、端建蔵橋を新設。 ●淀川の洪水で天満橋、天神橋などが流失。 ●天満橋、天神橋、肥後橋、渡辺橋が鉄橋になる。 ●市電の営業開始。 ●端建蔵橋架け替え。 ●渡辺橋、肥後橋の架け替えが行われる。 ●大江橋架け替え。 ●淀屋橋架け替え。
大正時代	大正3年(1914) 大正4年(1915) 大正7年(1918) 大正10年(1921)	●梅檀木橋、船津橋架け替え。 ●難波橋完成(第3号参照) ●大阪市中央公会堂完成 ●第一次都市計画事業開始 ●土佐堀橋が新設。 ●淀屋橋・大江橋のデザインを公募。 ●端建蔵橋の架け替えがあったと言われる。
昭和時代	昭和元年(1926) 昭和2年(1927) 昭和4年(1929) 昭和5年(1930) 昭和6年(1931) 昭和7年(1932) 昭和9年(1934) 昭和10年(1935) 昭和11年(1936) 昭和14年(1939) 昭和15年(1940) 昭和38年(1963) 昭和39年(1964) 昭和41年(1966) 昭和42年(1967) 昭和44年(1969) 昭和45年(1970) 昭和50年(1975) 昭和53年(1978) 昭和55年(1980) 昭和57年(1982) 昭和60年(1985) 昭和62年(1987)	●肥後橋、渡辺橋完成。 ●堂島大橋完成。(第5号参照) ●田養橋、堂島川可動堰(水晶橋) (第3号参照)、 ●錦流橋(第4号参照、玉江橋、越中橋(第8号参照)が完成。 ●桜宮橋完成。 ●土佐堀川可動堰(錦橋)完成。(第6号参照) ●筑前橋完成。 ●天神橋完成。(第7号参照) ●天満橋完成。(第9号参照) ●淀屋橋・大江橋完成。(第1号参照) ●平野橋完成。(第10号参照) ●上船津橋新設。 ●常安橋完成。 ●渡辺橋架け替え。 ●船津橋架け替え、端建蔵橋かさ上げ。 ●田養橋改築、かさ上げ、越中橋かさ上げ。 ●渡辺橋、肥後橋を地下鉄敷設と同時に施工で架け替え ●筑前橋かさ上げ。 ●常安橋かさ上げ、玉江橋拡幅・かさ上げ。 ●土佐堀橋架け替え、常安橋(下流側)完成。 ●天満重ね橋完成。(第9号参照) ●難波橋の補修工事が完了。 ●中之島遊歩道整備開始。 ●錦流橋改築・拡幅。 ●渡橋、上船津橋架け替え、水晶橋改築。 ●梅檀木橋架け替え、錦橋改築。 ●天神橋剣先スロープ完成
平成時代	平成2年(1990) 平成3年(1991) 平成6年(1994) 平成20年(2008) 平成21年(2009)	●中之島ガーデンブリッジ完成。 ●渡辺橋改修。 ●玉江橋改修。 ●肥後橋改修。 ●京阪電車中之島線開業。 ●中之島水上公園再整備工事を完了。

地盤沈下で橋沈没の危機。オシャレ衣装もやむなく脱ぎ捨て。

戦後になって地下水の汲み上げによる地盤沈下が顕在化。1960年代にはその対策として、特に中之島西部の橋のかさ上げや架け替えが行われた。華麗な姿を誇った渡辺橋と肥後橋が地下鉄四つ橋線を通す工事にともなう土台を残したほか、優美なアーチ橋であった田養橋なども土台を残して改築・かさ上げ。ほか筑前橋、玉江橋、常安橋、越中橋などにも手が加えられた。シマの橋、踏んばりどころ。



架け替えられる前の渡辺橋は華麗なアーチを誇っていた。

都市計画で巨匠が誓った、橋へのフォーエバーラブ。

1921年に開始された街路と橋の一大整備事業、大阪市第一次都市計画事業。初期には武田五一が指導にあたり、堀威夫や元良助などが技術者として参画。1942年までの約20年間で150を超える橋を永久橋として整備。都市景観を意識した橋づくりが精力的に行われた。中之島では天神橋、錦流橋、大江橋、淀屋橋、田養橋、筑前橋、玉江橋、常安橋、越中橋、堂島大橋、そして現在は見られないが肥後橋と渡辺橋と、錚々たるメンバー。



昭和9年、都市計画事業によって架けられた天神橋。

これからはイシよりテツ。東京よりお先に鉄橋へチェンジ!

1870年、全国で3番目の鉄橋として高麗橋が架けられた。この鉄橋こそ、大阪の進取の気風を象徴するもの。当時の東京が権力にモノを言わせて九州から大工を集めて石橋を建設するのを尻目に、大阪はさっさと材料をイギリスから輸入していち早く鉄製の橋をつくり上げてしまうのだ。以後も大阪各地で鉄橋が次々と架けられ、1885年の洪水をきっかけに、天満橋、天神橋、肥後橋、渡辺橋などが鉄橋に。



明治21年、鉄橋となった天満橋。真ん中はクルマと馬用。

ワシもオレも、「橋つくりたい!」。中之島に「橋バブル」到来。

江戸時代に入ると豪商や有力な藩により堀川と橋の整備が進められ、中之島には蔵屋敷の発展とともに数々の橋が架けられた。幕府直轄の公儀橋として発展した天神橋や難波橋、肥後藩の細川越中守にその名が由来するとも言われる越中橋や肥後橋。江戸時代初期の豪商・流屋常安の名を冠する淀屋橋に常安橋。堂島川開発とともにつくられ元禄五橋と呼ばれた大江橋、渡辺橋、田養橋、玉江橋、船津橋。そして渡橋や筑前橋、梅檀木橋も江戸生まれ。今ある橋の半数以上は江戸時代がルーツだ。

hashidas 橋用語の基礎知識

【市電しでん】

明治半ばから大正末期にかけて橋の近代化を促進したのが市電事業。難波橋を皮切りに、淀屋橋、大江橋、肥後橋、渡辺橋、船津橋、端建蔵橋、土佐堀橋などが架け替えられた。天満橋では市電対策で頑丈につくられた橋を活かし、戦後に橋を2階建てにして上空に高架の道路を通すというアクロパティックな技も。→京阪電車中之島線の駅名にもなっている天満橋。よく見ると2階建てってけっこうすごいぞ。



hashidas 橋用語の基礎知識

【ガルバー橋 げるばーきょう】

その名はドイツ人発案者に由来。両側から張り出す桁に中央の桁が乗っかる形式で、地盤が弱い中之島エリアでも無理なく架けられる。錦流橋、常安橋、玉江橋、越中橋、上船津橋、湊橋など戦前生まれの島の橋には一般的な構法だ。スタンダードな形式とはいえデザインコンシャスな島の橋。桁下のカーブがきれいに流れるように気づかい。細かいオシャレ心がクワイ! →写真は玉江橋。よく見ると橋桁の両端と中央で色が変わっているのが分かる。



マニラへかける橋

「もつと橋を好きになりたい...」。そんな島民たちの声に応えるべく、大阪が誇る「橋好き」を直撃。向かった先は大阪市建設局にある、日本でも珍しい橋梁担当である。そう、これが「橋明えの作法」だ!

取材文/大迫力 田井麻希(共に本誌)

——まずは「橋の魅力」に気づいたきっかけから知りたいのですが。

横田 小学生の頃、夏休みの工作で長崎の西海橋という橋の模型を作ったんです。図面があったわけではないんですけども、マッチ棒みたいなものを組み合わせてアーチの橋を作って提出したんです。その後、持って帰って壊してやろうと思ったんですが、それがぜんぜん壊れない。重しをなんぼのせても壊れないんです。

——その合理的な構造に驚いた、と。

横田 思った以上に強度が高くて、力学的にきっちりしたものは見た目以上に強いんだなと子供心に思ったんです。それからですね、橋を自分の仕事にしたいな、と思うようになったのは。

小松 仕事でやっているうちにだんだんとハマってきたんです。建設局の中にもいろいろ部署があって、いろんな所を経験しましたが、橋はやっぱ、奥が深いということですかねえ。橋ってね、地中に杭が埋まったり水の中にあたり、見えない部分もけっこうあるんですよ。なぜこういう構造になるのか難しいです。

——計算もいるし、奥が深いんですよ。やはり「構造」に興味をひかれたわけですね。

小松 一方でね、中之島の難波橋みたいに、デザインも凝ってるじゃないですか。大阪の場合は美観と言いますが、建築物のひとつみたいな形で考慮していかなければならないという話もあったりして、普通の土木工事に加えて、建築物として考えることもできるわけです。

「構造美」こそ橋の魅力の入口である

——橋について、ついこういう所を見てしまう点がありますか？

小松 僕はね、橋の裏側を見てしまいますね。橋裏の橋ゲタ見て、鉄がどれくらい錆びてるか、とか見てしまいますね。

横田 我々の仕事の一つは、新しい橋を建設することもありますが、阪神大震災以降、非常に耐震基準が上がったので、耐震対策もどんどんやっていかないとけません。他にも

アーチみたいな橋が好きですね。昔の人の意気込みを感じますしね。

横田 私は形自体には好き嫌いはないんです。それよりも、橋の力学特性というか、形式の必然性。なぜここにこの形の橋が架かっているか。そこには構造から見た必然性もあるんですよ。あるスパン(距離)をとばすにはこの形式でないとダメだ、とかね。

——「とばす」ってすごくプロっぽい言葉ですね。今度使おうっと。

横田 橋の構造は力学的な視点から決まる場合もあるし、現地の様々な条件から決まる場合もある。なぜここに吊り橋を架けないといけないのか、あるいはなぜアーチなのかという必然性が見えてくるような橋は美しいし、好きですね。設計する人間にとっては、「ここはこれではなくては！」という意図がありますから、その意図が見えてくるような橋はいい



大阪市建設局道路部橋梁担当課長 横田哲也さん(左) 係長 小松靖朋さん(右) 大阪市が全国に誇る橋のエキスパート。新橋の架橋、耐震補強など八面六臂の活躍で大阪の橋を守り続ける。横田さんは以前、本誌「Mr.グッドリバーをさがせ!」にもご登場。お二人とも大の橋好きでもある。橋の紹介ページもある大阪市建設局のHPは <http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/>

景観整備としてのライトアップや広報活動も我々の業務なんですけど、維持管理がかなりの比重を占めてるんで、どうしてもそこに目がいってしまうわけです。

——それはもう職業病みたいなものですね。横田さんはいかがでしょう。

横田 橋梁担当の中で自分が何に携わっているかによって変わります。例えば新しい橋のことや架け替えをやっていると、構造や設計の細かいディテールに目がいきます。デザインについては、構造的に美しい橋もあれば、意匠を凝らすことによって美しい橋もあるし、オーバーデコレートされて「これやりすぎちゃうの?」というのもあるし。あるいは維持管理なら、錆びや傷みの具合は、どっかとか、地方へ行った時でも大阪と比べてどうか、と見てしまいます。

「プロは橋の「体調」にまで目を向ける

——中之島には橋がたくさんありますが、鑑賞のポイントは何ですか？

横田 橋だな、と思いますね。なぜここにこの形で架かっているのか、を考えるのは面白いですね。

小松 中之島で言えば、この場所の持つポテンシャルを感じて、美観的にかなりいいもの造ってきています。

横田 形式だけじゃなくて、意匠も含めてすべての面で周辺の環境に一番マッチしたものを選んでいると思います。経済性だけを重視すれば、堂島川や土佐堀川くらいの川幅であれば一番シンプルな桁橋ばかりになっちゃうんですよ。でも中之島の持つ歴史やら街の力がそうさせないんでしょうね。それは昔から我々の大先輩がそうしてきた結果であって、我々も引き継いでいくべきでしょうね。

なぜこんな形になったかに想いを馳せるべし

渡る前に覚えてほしい

橋のかたち

桁橋 橋脚などに橋桁を渡した最もシンプルかつ基本的な構造。あまり長くない橋に向いており、大阪市内では最も多く見られる。

トラス橋 部材を三角形に連ねた骨組みを持ち、いろいろな組み方がある。変形しにくく中を埋める空間も要らないため、少ない材料で大きな空間を保てる。

アーチ橋 弧を描くアーチ部材を使用することで生まれる圧縮力を利用して。見た目にも美しく、古代ローマ時代から用いられている構造。

ラーメン橋 橋桁と橋脚が一体になっている構造。山間部の深谷をまたぐ橋や、都市部を走る高架橋、高速道路などによく見られる。

斜張橋 橋桁を塔から斜めに張られたケーブルで吊った構造。塔やケーブルの形式を比較的自由に設計することができ、現代的な印象の外観となる。

吊橋 塔に張り渡されたケーブルによって橋全体を吊り、そのケーブルを塔が支えている。特に長い距離にわたって橋を架ける際に適している。

hashidas 橋用語の基礎知識

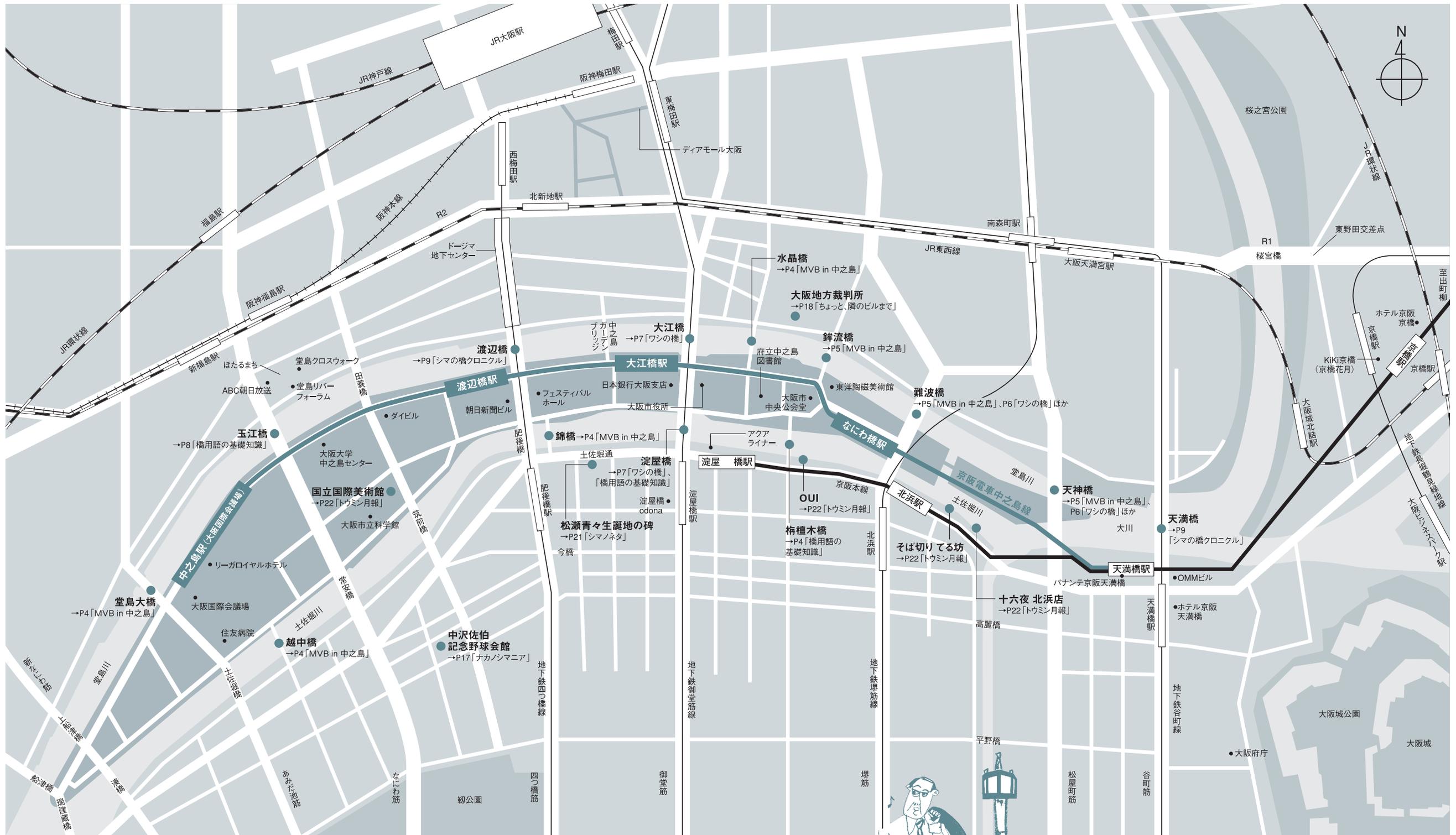
【町橋・公儀橋 まちばし・こうぎばし】

公儀橋とは江戸時代初期に定められた、幕府が直接管理する橋のこと。大阪では12橋が選ばれ、うち中之島に架かるのは天神橋と難波橋の2つ。公儀橋以外の橋は町橋と呼ばれ界隈の有力商人や近隣の町が建設や管理の費用を負担した。各藩の蔵屋敷や商家が建ち並びビジネス街だった島の場合、豪商の淀屋常安が私財で架けたとも言われる淀屋橋や、肥後藩の蔵屋敷に由来する肥後橋や越中橋など、橋名にも民間事業の二オイがブブン。

hashidas 橋用語の基礎知識

【八百八橋 はっぴやくやばし】

江戸の八百八町、京都の八百八寺に対する、大阪の特徴を端的に示す言葉。実際に1932年の調査では1419本、現在も約800の橋が市内に存在する。→橋が多い街ゆえか、「浪華橋々繁栄見立相撲」なる番付まで。そのレプリカが錦橋の北詰に。ちなみに東の大関は天神橋、西は難波橋。行司はなぜか四ツ橋。



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!

カンニングとキャバレー「ハワイ」

1975年4月、私は苦しい予備校生活から解放され、晴れて大学に入学した。

入学式の数日後、当時、中之島にあった阪大医学部の講堂でオリエンテーションがあり、そのあと、自治会が映画『白い巨塔』を上映した。阪大にとって決して名譽でないこの映画を、自ら上映するとはなかなかの度量、と今では思うが、当時は何もわからず、ただ田宮二郎の深刻顔が印象に残ったばかりだ。新入生に医学部のおどろおどろしさを、先制パンチ的に教え込もうとしたのか。

そのあと、教養課程の講義がはじまったが、教養部は豊中市待兼山にあり、私は2年間、中之島を離れることになった。

といっても、堺の自宅から通っていたので、しょっちゅう途中で挫折し、難波や梅田で映画を見た。1回目は無事に成功。私は必死で友人の解答を頭に詰め込み、その間に友人は少しでも点を稼ぐために、私の答案に答えを書き込んでくれた。あらかた覚えて、答案用紙を戻そうとしたとき、気配を感じた教授は、我々から目を離さなくなってしまう。終了時間が刻々と迫り、私はこめかみに冷や汗が流れた。

焦りが頂点に達しかけたとき、離れた席のだけれかが手をあげ、何か質問した。わずかに教授の目が逸れ、私たちは電光石火の早業で答案を交換した。そして、なんとか合格点ぎりぎりの答えを書き、私は留年を免れた。このときの緊張を思い出すと、今でも胸が締めつけられる。

教養部の講義のなかで、一つだけ勉強もカンニングもせずに単位をもらった科目がある。統計学である。担当のT教授が、私たちのクラス担任だったからだ。大学のクラス担任というのは、要するに専門課程への落伍者を出さないためのものらしい。従って、当然、自分の講義で留年者を出すわけにはいかない。

講義にはほとんど出なかったが、一つ覚えているのは、数式の「a」と「d」の見極めである。T先生が板書する「d」は縦棒が短く、「a」とほとんど同じなのだ。そこに「a」が加わると、さらに見分けがつかなくなった。学生がそのことを指摘すると、先生は「わからないことはないでしょう。aはこうだし、dはこうで、αはこうだから」と三文字を並べて書いた。そして

を観たり、喫茶店に入りびたったりしていた。ドーチカ(堂島地下センター)にあった「大毎地下劇場」や、新朝日ビルの「SABホール」で、エキブ・ド・シネマなどの名画もよく観た。

日本の受験システムは、入学までがあまりに厳しいので、入ったら勉強する気をなくす学生も多いのではなからうか。私はまさにそうだった。予備校であれだけ苦しんだのだから、これからは遊びまわろうと心に決めていた。特に教養課程は医学に関係ないので、ノートもとらず、出席も最低限で、出ても居眠りか落書きばかりしていた。試験はすべてカンニング。

カンニングはバレないようにやっているつもりでも、教師はお見通しのことが多い。ドイツ語の試験では、返ってきた答案に、丸印で「カン」と書かれていた。何のことかわからず、友だちに聞くと、見事にカンニングをした学生にだけ、

教壇から下りて、学生の席から眺めて一言「あ、同じやな」と言ったので、教室は爆笑に包まれた。

講義には出なかったが、飲み会には欠かさず参加した。あるとき、キタでT先生を囲むコンパがあり、学生の一人が、「先生はキャバレーなどには行かれないのですか」と訊いた。ほろ酔いの先生は、「行かんこともないな。これから行ってみるか」とおっしゃった。学生たちはいっせいに「行きます！」と叫び、一行十数人が先生のお供で、当時、梅田にあった「ハワイ」という店に繰り込んだ。私は生まれてはじめて入るキャバレーに興奮し、期待と不安で胸が張り裂けそうだった。

薄暗いボックス席に座っていると、横にキラキラのミニドレス姿の女性が来て、いっしょにビールを飲みはじめた。キャバレーが何をやるどころか、どこまで許されるのか、予備知識のない私は、女性に触りたい欲望に目を血走らせながらも、何もできず、空しい会話に悶々としていた。

すると突然、女性が接吻をしてきた。予期せぬことに動転し、私は石のように固まった。肩でも抱けばよかったのだが、とてもそんな余裕はない。さらさらした軟体動物のごときものが歯を押しつけて侵入し、私の口腔を蹂躪した。

やがて女性はマイクで呼び出され、ほかの席へ移っていった。若くて愚かな私は、突如、「ホステス≧性病の恐れ」という偏見に襲われ、早く口をゆすがなければという思いに駆られた。

その印がついていた。「わかっているぞ」と示しながら、通してくれるフトコロの深い先生だったのだ。

カンニングでいちばん緊張したのは、英語の試験だった。辞書持ち込み可だったので、何の準備もせずに受けたら、知らない単語が続出で、とても辞書を引いているひまがなかった。カンニングペーパーもなく、となりの席も遠くて横目が利かない。これを落とすと留年なので、私は焦った。

となりにいた友人に小声で窮状を訴えると、友情にあふれる彼は、大胆にも、答案用紙を交換しようと言ってくれた。ほぼ解答し終わった彼の答案を覚えて、それで書けというわけだ。これはかつて試したことのない大技で、発覚すれば2人も留年する。我々はタイミングを見計らい、教授の一瞬の隙をついて答案をすり替

水がなかったので、ビールでぐちゅぐちゅとやり、目の前にあった灰皿に顔を近づけ、ベッと吐いた。すると吸い殻の灰が舞い上がり、顔中、灰だらけになってしまった。店内が暗くて、灰皿が使用済みであることが見えなかったのだ。口の中にも灰が入り、文字通り、苦い思い出となった。

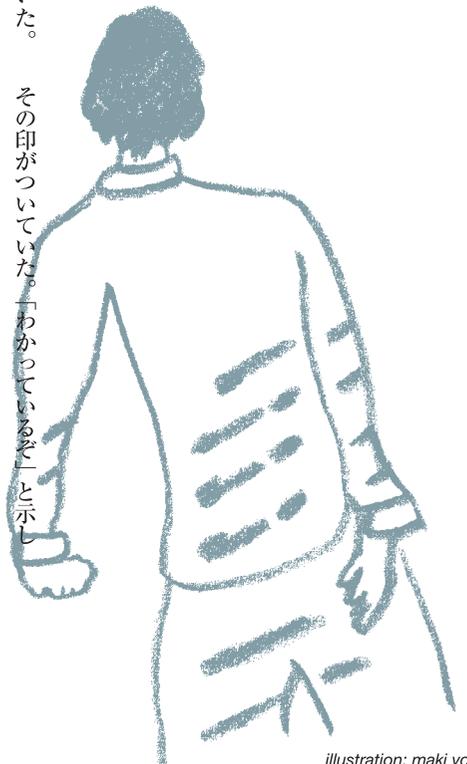
このときの支払いは、一人千円だった。キャバレーって案外安いなと思ひ、これならまた来て今度こそいい思いをと密かに誓ったが、あとで聞くと、先生が大半を肩代わりしてくれていたらしい。それでキャバレー・リベンジはあきらめたが、T先生の太っ腹には感心した。

それにしても、教授が学生を「ハワイ」などというキャバレーに引率して、問題ないのだろうか。もちろん、学生がしゃべらなければ露見はしない。ある学生はそれを逆手にとって、もし統計学で単位を落としそうになったら、こう叫ぼうと言った。

「リメンバー・パールハーバー！」

しかし、優しいT先生は、試験がほとんど白紙だった私を含め、サボリ組を再試験することもなく、全員合格にしてくれた。そのおかげもあって、私は無事、中之島にもどってこることができた。

だが数年後、T先生は定年を待たずして、鬼籍に入られた。きまじめさのなかにも、親しみのある先生だったのに……。わずかにしゃがれたその温厚な声は、今も私の耳に残っている。



くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』(幻冬舎文庫)でデビュー。現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。現在発売中のミステリ誌『メフィスト』に初の短編「祝葬」が掲載。

中之島の西の端にたどり着いた俺はその風景を見て「悲しきサルタン」を歌おうかと思った。直感に衰えなし。ダイヤ・ストレイツだったな。へんな歌だが独特な何かがある曲だ。忘れられない。でもなんで「悲しきサルタン」という曲名になるんだ。中之島の西の端から卸売市場が見える。そのはるか向こうに湾の気配がする。湾か。「ワン」と聞いたなら思い浮かぶことは様々なれど、湾という字を見て思い浮かべるのは景色であり地図である。湾はサンディエゴに通じる。クルマでメキシコのティファナまですぐ行ける。タコスとサルソースの季節近し、か。



また来てしまった、
中之島。あー。 バックキー
イノウエ

其二
西の端は「悲しきサルタン」。

で迷う。バーで明日へとフェードアウトする。悲しきサルタンか。路面店のバーのカウンターでスツと汗をかいたグラスが出てきた。スコッチの水割りか。うまさうだ。うまさうだけれど一杯飲めば次からはのつべらぼうの酒水になる。それを知りつつグラスはすぐに空になる。頭ではなく手が動きグラスをつかんで飲んで「おかわりお願いします」。口も勝手に注文をしている。二杯目よりも三杯目の方が酒水なことも知っている。次で出よう。次で勘定してもらおう。そして中之島に戻ろう。戻るところがあるのか。な

京都から京阪でひとりやってきた俺が何故こんなに中之島をうろつかなければならないのか。行きがかりじょうか。中之島の西の端からまたロイヤルホテル方面へ向かいながら俺は歌った。

「ここにいたあなた 思い出せはしない 道中並木はうすら岬よ 逃げて逃げない宵がまた来る中之島」

そんな歌が脳裏を横切ればシマを出て難波に向かうしかない。堂島大橋辺りで急にタクシーに乗った。地元ではないところでタクシーに乗ればいつも少しだけスパイな血が動く。そして支払いはいつも予想より高い。それだけ京都は狭いということだと思ふ。タクシーを降りてどこに向く。暗い方に向く。そしてまた歌う。

「難波何ある誰にある 宵のざわめきせつなくて ゆれた暖簾が気にかかる」

酒は往路だけがうまい。復路に酒は似合わない。

誰の歌だったかわからぬまま難波の路面店のバーに入る。うまい酒など欲しくない。そうさ俺はうまい酒よりも残念な何かを求めてバーで飲む。バー

路面店のバーを出て難波でうろつけばいいものをなぜか帰りたくなり淀屋橋に向かった。もう京阪に乗って帰ろう。そう思った時、俺の胃が胃酸過多を知らせた。まだ8時。何か食ってから電車に乗れと行っている。駅のそばのビル地下の店か。そういう店は救ってくれる。俺は何度も救われた。(つづく)

ばっキー・いのうえ 錦市場の漬物店「錦・高倉屋」店主にして日本初の酒場ライター「Mezuz Regional」誌ほかで酒ライターを連発している。最近「酒場ライター養成講座」などを通じ、後身への育成にも力を注いでいる様子。

ナカノシマニア

取材文／松本創(本誌)

雲 は湧き光あふれる季節がやってくる。そう、夏の甲子園である。まだ氣イ早いやると言うなかれ、沖縄では今月半ばに予選が始まる。そしてこの大会、中之島とは深い縁があるのだ。大正4年(1915)に大会を立ち上げたのは大阪朝日新聞社(当時)。組み合わせ抽選は昨年までずっとフェスティバルホールで行われていたし、何より全国高校野球部の総元締たる日本高等学校野球連盟は橋を渡ってすぐの江戸堀に建っているのだ。

その建物を「中沢佐伯記念野球会館」という(右写真下)。高野連の礎を築き、ニッポン

高校球児かくあるべし、の強固な哲学を作り上げた第2、3代会長の名を冠している。広い芝生の庭には2人の胸像。その横に、白球を追い、選手宣誓する選手たちの像。さらに、折り畳み式の緑色のシートが3脚。これはもしや…。

「昨年の甲子園改修で取り外したバックネット裏の座席です。熱心なファンがたまに訪ねて来られるんですが、あいにく展示資料などはなく、せめてこの庭だけでも見てもらおうと…」と事

熱闘甲子園はシマが支えていた。

務局次長の泉正二郎さん。

サッカーに押され野球人気は低迷、などと言われたのも今は昔。高校球児は9年連続で増えているという。昨年は18万748人。イチローやダルビッシュの活躍、日本のWBC連覇がさらに追い風になりそうだと、自身も高校

球児だった泉さんは期待する。

そんな球児たちに夢の舞台を用意する裏方であると同時に、お目

付け役ともなるのが高野連。時々新聞

を賑わす球児の不祥事や出場停止処分は、

ここで毎月開かれる常任理事会で協議されている。一昨年ひと騒動となった特待生問題や、長い怨讐の歴史を経てようやく緩和へ動きつつあるプロ・アマ交流に関する専門委員会もある。

「今夏から特待生制度の1期生が入り、戦力はさらに均衡して、熱い戦いが見られると思いますよ」と泉さん。実は島民が支えていた熱闘甲子園。今年の開幕は8月8日である。



甲子園から移設されたシート(写真上)は、中央ボックス席最前列の3席。いちばん手前の21番シートは熱狂の跡か、座席の裏が割れていたという。

日本高等学校野球連盟

前身の「日本中等学校優勝野球大会」を運営する全国中等学校野球連盟として、戦後まもなく発足。夏の選手権大会と春のセンバツ大会(毎日新聞社主催)を運営する。昭和44年に朝日新聞ビルから現在地に移転。フェスティバルホールが建て替えに入った今夏の組み合わせ抽選は「グランキューブ大阪」と、やはり中之島で実施予定。ちなみに高校野球の歴史を伝える資料類は、来春甲子園球場内に完成する「甲子園歴史館」に展示される。



第10回

[第201号法廷]@大阪地方裁判所



意外に簡素な、法の番人の棲む空間。

裁判員制度が始まった。「人を裁くなんて荷が重い」「辞退できないか」と尻込みする声相変わらず多いそうだけど(当然ですよ)、しかしそうとばかりも言っておれない。ともかく始まってしまったのだから…というわけで大阪地方裁判所に出掛けてみた。

川の端で中之島を見下ろす壁のないかめしい建築。一抹の気後れもあるが、法廷は本来、開かれた場だ。傍聴は基本的にフリーパスだし、裁判員制度への理解を深めるため、見学も積極的に受け付けている。「最近是一般の方の団体傍聴が増え、7月末までいっぱいです。PTAや大学のゼミが多いですね」と事務局の担当者。

「第201号法廷」を案内してもらった。傍聴席90席を備える同地裁最大の法廷。傍聴希望者の数が最も多かった宅間守の事件、それに次ぐ小室哲哉の事件など、社会的関心の高い裁判が数々行われてきた場所だ。

高い天井、紋様入りの布張り壁、柵の向こうの証言台…。けれど、無人の法廷は意外にカジュアルと言おうか、たとえば議会の議場に比べれば装飾は少なく、威圧感もない。3人の裁判官と6人の裁判員が着く長机は緩い弧を描き、柔らかな印象すら…と言うと「まあ裁判長が座れば雰囲気も変わりますがね」とのこと。

別の日にのぞいてみると、詐欺商法の公判が開かれていた。3人の被告を囲み、弁護人席も検事席もぎっしり。淡々と静かに審理は進む。厳粛に張りつめた空気は、なるほど法の番人の棲む空間であった。



法廷の扉には覗き窓があるので、傍聴に入る前に雰囲気を確認される。



公判の後、裁判員と裁判官が話し合う評議室はさらに明るい雰囲気。陽光が差し込み、窓の外には中央公会堂が。※敷地内の撮影は許可を得て行っています。



本館地下の売店には1万冊以上の法律書が揃う。裁判員制度とは何ぞやを知り、考えるのに役立つかも。

大阪地方裁判所

明治元年、本町に開設された「大阪鎮台」を皮切りに数度の移転を経て、明治23年に現在地へ。だが、明治年間に2回も全焼するという多難な歴史を秘めている。201号法廷のある本館は、上階に高裁も入っており、いずれも傍聴は自由。1階ロビーに裁判の時間や事件名を記した開廷表がある。団体傍聴の問い合わせは総務課広報係 ☎06-6316-2619

続・中之島の息吹 説法

「カイシヤで始める仏教生活」

「仏教ではこんな風に考えます」を日常生活のヒントにするべく、シマの住職こと釈徹宗先生による仏教用語講座、始まり始まり！

しゃく・てつしゅう
大阪・池田市にある如来寺住職。兵庫大学教授。朝日カルチャーセンターで講座を持つなど、中之島と縁が深い。昨年上梓した「不工斎ハジメ」(新潮選書)が第9回読者賞を受賞。著書は他に「いきなり始める仏教生活」(バシリコ)など多数。

【三業相応】

さんごうそうおう



今回から少し目先を変えて、会社や日常生活のふとした場面で覚えておくと役に立ちそうな仏教用語をご紹介しますことにしましょう。以前、「仏教では、身体と言葉と心を三業と言います」とお話したことがあります。そしてこの三つの働きが、互いに相応し、調和している状態を「三業相応」と言います。仏教が目指す心身の状態です。

私たちは、ついつい「態度や行い」と「語る言葉」と「内面や思い」がズレてしまいます。あっ、今、「当たり前じゃないか。思っていることをそのまま口にしたたり、態度に出したりしていたら、社会生活ができないよ」と思いましたね。おっしゃる通り。私もしょつちゅう、「三業」が相違しています。

でも実は、自分をよく観察してみると、「三業」が大きくズレるときは、「無理に実行する」とか、「思い入れが強すぎる」などといった場合が多いはずなんです。まずは三つの働きが過剰にならないよう、そして調和するように気をつけてみましょう。それをひとつの生活指針にしていると、必ず安寧な心身状態の方向へと向かっていきますから。

●質問

私は親歴6年の二児の母ですが、未だに「親」として、どう子供に向かいあうべきなのか迷うことがあります。家族の崩壊や家庭内殺人といった事件がひきまきらず伝えられています。仏教では「親」の在り方や、「親子」について、どのように説かれているのかご教示下さい。

(36歳・女・団体職員)

●解答

「ご自身で「迷っている」ことを自覚し、さらに「誰かに相談しよう」とされるお母さんは大丈夫です。ご心配なく。さて、仏教の理想は「生きとし生けるものすべてに平等な慈悲の心と実践を」ということとなります。ですから、「親子」といった関係に過剰なこだわりをもつことは苦悩へとつながると考えます。また仏教は「中道」という中心的な思想をもっています。「中道」にはいろんな意味があるのですが、まずは「極端はダメ」と考えてください。つまり、「親と子」という関係性について全く取り組まない、の、子供はこう育てるべきなどと関わり過ぎる、の、極端な状態という意味では同じようなわけですね。極端にならないように心がけて、「慈悲」の精神を大切にしましょう。「慈悲」の原語のひとつに「アヌカンパー(相手の振動に共振する)」というのがあります。相手の悲しみを我が悲しみとする、相手の喜びを我が喜びとする、そんな風に考えてください。

質問募集 このコーナーでは釈徹宗先生への質問を募集しています。職場での人間関係の悩み、家庭生活の中のふとした疑問などなんでもけっこうです。メールもしくはファックスにてお待ちしております。e-mail: uketsuke@140b.jp Fax: 06-6445-2106

シマにまつわるあれこれの名刺を勝手にデザイン
ワタクシ、こういう者です。

デザイン/長友啓典

月刊島民

〒500005
大阪市北区中之島
電話〇六(六四四五)二一〇五番
ファックス(六四四五)二一〇六番
E-mail: uketsuke@140b.jp

あ、どうも初めまして。島民です。
そうなんです、「どうみん」って読むんです。
ほらね、毎日、橋渡ってるでしょ？
これって中之島というシマへやって来てるわけで、
ということは「オレ、島民やん」なんて思って、
ちょっと作ってみたんですよ。
なるべく橋の上で渡すようにしてるんです。
「えらいカタイなあ」って？ よく言われるんですよ〜。
まあ、中之島って言ったら歴史もあって上品だし、
これくらいシブくても良いでしょ。
ええ、カタイのは名刺だけにしますんで(笑)

◎名刺のココロ

「最初やし、島民自身の名刺から。編集部だけでなく、読者や働いてる人も含めたみんなの名刺やね。中之島で過ごす以上、これくらいの品がなければダメと心せよ、というところかな」

ながとも・けいすけ

1939年大阪生まれ。1964年日本デザインセンター入社。1969年黒田征太郎とK2設立。エディトリアル、各種広告を手がけるほか、多数の小説に挿絵、エッセイを連載。自身が手がけた名刺デザインをまとめた『成功する名刺デザイン』(共著・講談社)も発売中。

「ぜひあの人の名刺を」「あの場所を擬人化して名刺を作ったら面白い」などのリクエストを募集します。
あなたの作ってほしい名刺のプランをお寄せ下さい! uketsuke@140b.jp

上方講談師・旭堂南海の シマノネタ 第九回

俳人・松瀬青々、 土佐堀川にて決意す。

俳句は全くの素人である私が松瀬青々の句を取り上げるとは不遜極まりないが、講談師として、物語を作るにおいて、この句が目にとまり、その情景が頭から離れない。



松瀬青々の生家があった三井住友銀行大阪本店の駐車場の片隅に、その歴史を伝える碑がある。

松瀬青々、本名彌三郎。大川町(今の北浜四丁目、三井住友銀行本店のあたり)に明治2年産声をあげた生粋の大阪人である。親爺の稼業・炭屋を嗣

承である。親爺の稼業・炭屋を嗣承である。東京に集まる人たちにも、東

京の匂い、中央という意識にも。ほとんど誰とも話をしなかった。大阪の友人たちがその噂を聞き「帰って来い」と両手を広げてくれた。青々はわずか8ヶ月足らずで大阪の実家へ戻ってきた。友人たちは「大阪で句会をやろう」と集まってきた。時に明治33年5月。けれど、青々には「大阪で何ができるだろうか」と迷いがあったに違いない。子規や「ホトトギス」から離れることは俳句の中心から外れるということの意味する。それでもそんな心の迷いに終止符を打ち、大阪で俳句を詠むと決めた。俳句雑誌『宝船』を創刊したのが明治34年3月。

「肥後橋に筑前橋に遅日かな」

(松瀬青々「妻木」所収 明治34年4月吟)

講談師の私は、ここで「物語」が鮮明に情景として浮かんでしまったのである。表題の句「肥後橋に筑前橋に遅日かな」が詠まれたのが明治34年4月。実家の前、土佐堀川に架かる橋二本。いつも見ていた橋。なんら変わることもない景色。けれど「大阪で」と決意した時に眺めた橋は夕陽にキラキラと輝いていたに違いない。

きょくどう・なんかい
1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前(1989年)に三代目旭堂南海に弟子入り。1998年大阪市より「咲くやこの花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花侠客伝」「天満宮霊験記」など。6月2日のトリイホールでの公演をはじめ、今月も精力的に高座をこなす。

世界最大の規模を誇る美術館、ルーヴル美術館のコレクションが橋を渡ってシマンとやって来る。国立国際美術館では、6月23日(火)

から特別展「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」を開催。選りすぐりの約200点の作品が中之島にお目見えする。タイトルにもあるように、今展

やっつて来る！ルーヴル美術館が

右/「少女のミイラと棺」©2008 Musée du Louvre / Georges Poncet
下/「マスター・ヘア」©RMN / Hervé Lewandowski / distributed by DNPartcom



のテーマは「子ども」である。ルーヴル美術館には古代エジプト美術、古代オリエント美術、古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術、彫刻、美術工芸品、絵画、素描・版画という7つの部門があるのだが、それぞれの部門から「子ども」にまつわる作品を集めている。したがって、絵画や彫刻はもちろん古代エジプトのミイラがあったり、時代や地域も実にさまざま。時間も空間も飛び越えて、ルーヴルのフトコロの深さを体験できる展覧会でもあるというわけだ。
(大迫 力・本誌)

●ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち
会期/6月23日(火)~9月23日(祝)
開館時間/10:00AM~5:00PM(金曜~7:00PM)
※入館は開館の30分前まで
休館日/月曜
(7月20日は開館、翌21日は閉館、9月21日は開館)
観覧料(一般)/当日1,500円 前売1,300円
団体1,200円(20名以上)
問い合わせ/国立国際美術館 ☎06-6447-4680



主佐堀川に川床オープン

●北浜テラス ~7月25日(土)ごろまで
【十六夜 北浜店】☎06-6208-7078 11:00AM~2:00PM 5:00PM~11:00PM
(土曜は夜のみ) 日・祝休(祝日は営業の場合あり)
【そば切りてる坊】☎06-6231-8885 11:15AM~2:00PM 6:00PM~9:00PM
日・祝休(水・土曜の夜は予約のみ)
【OU】☎06-6233-1192 11:00AM~2:00PM 5:00PM~10:00PM
(土曜は2:30PM~5:00PMにカフェ営業も) 日・祝休

川床と言えば京都の鴨川が有名だが、中之島にも実は川床がオープンしている。「もっと水辺を有効活用したい」と、昨年から複数のNPOや地元ビル、テナントオーナーによって始められたこのプロジェクトは題して「北浜テラス」。土佐堀川沿いにある3軒のお店が川に向かってテラスを設け、そこで食事やお酒を楽しめるのだ。「前回は大々さんのお客さんに来ていただきました。今年は期間を延ばして3ヶ月間実施。『水都大阪

2009』での常設化も目指しています」とNPO水辺のまち再生プロジェクトの末村巧さん。今後、もシマの夏の風物詩となるよう、働きかけていくそう。参加しているのは、泉州の地魚が名物の「十六夜 北浜店」、手打ち蕎麦の「そば切り てる坊」、そしてカジュアリタリアン「OU」の3店。夜だけでなくランチ営業時も川床はオープンしているので、気軽に楽しむことができそう。 (大迫 力・本誌)

わたしと『月刊島民』 ティーハウス ムジカ 堀江敏樹さん



堂島で56年商売してるから中之島のことはたいがい知ってるつもりやっただんど、お客さんに勧められて読んで『島民』には感心することが多くてびっくりしたわ。中身だけじゃなく表紙もいい。置いてるだけでサマになる。うちは基本的にフリーペーパーは置かない主義なんだけど、これはぜひお客さんにも読んでもらいたいですね。ゆっくり紅茶を飲みながら昔の中之島に思いをはせたり、今の街をじっくり味わうっていうのもまた乙ですよ。

本誌第5号の酒場特集で、「中之島とブルース」を熱く語ってくれた歌謡ソウルシンガー、大西ユカリ。ABCラジオの番組は残念ながら終了したものの、島との縁は切れない。なんと島にそびえ

島民的デュエット登場

「歌で大阪を盛り上げよう」と意気投合した2人のデュエット曲は、大阪の地名や名所、大阪ライクな言い回し、さらにアナウンサー出身の市長の語りまで盛り込み、「ウェルカムカム大阪」と明るく掛け合う街の応援ソング。発売直後には、恒例の通天閣劇場に市長が飛び入り出演し、大いに盛り上がりつつらしい。本誌インタビューで予告していた大西ユカリのソロアルバム『HOU ON(報恩)』も5月20日にリリース。「水都大阪2009」も間近に控え、新たな大阪盤が続々登場なのである。(松本 創・本誌)

次号予告

学園天国

Are you ready?

最近、中之島には大学のサテライト校舎が進出。島民として、これを大いに利用しない手はない。とは言うものの、意外と「何をやってるのか？」はあんまり知らないのもまた事実。みなさん、新学期の準備を始めましょう。

●『月刊島民』Vol.12は2009年7月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-6591 大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル140B
Tel.06-6445-2105 Fax.06-6445-2106
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社

配布協力先

京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋/ブックファースト梅田店/旭屋書店 本店/旭屋書店梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店淀屋橋店/福家書店 淀屋橋店/天牛塚書店 大江橋店/紀伊國屋書店 本町店/ジュンク堂書店天満橋店/アパルティBC OMMビル店/紀伊國屋書店 京橋店/隆祥館書店/大阪市中央公会堂/府立中之島図書館/専門学校中之島美術学院/朝日カルチャーセンター/大阪大学中之島センター/大阪大学21世紀構徳堂/摂南大学地域連携センター/慶應大阪リバーサイドキャンパス/大阪倶楽部/芝川ビル/大阪国際会議場/市立住まい情報センター/大阪商工会議所/大阪企業家ミュージアム/大阪市立中央図書館/大阪歴史博物館/奈良県立図書館情報館/宗是そば 喫茶 大大阪/ネールサロンスワン/吉田理容所/たまがわ鍼灸整骨院/ABC朝日放送/MANGUEIRA/TOSABORI SANDWIC HBAR/Girond's JR/じろう亭/ミニロー/黒門さかえ/ティーハウスムジカ/BAR THE TIME 天神/N4タワー マンションパピリオン/ホテルNCB/MJB珈琲/上町貸自転車/ザ・メロディ/なんば書店カルチャーコーナー その他、取材協力先

バックナンバーお譲りします。

昨年8月に創刊した「月刊島民」。大きな支持をいただいていることは、「バックナンバーありませんか?」とダイビル内にある月刊島民プレスを訪ねてくる方々の多きからも伝わってきます。さて、そのバックナンバーにつきまして、1冊につき100円をいただくこととなりました。号を重ねていくうちに保管用のスペースが必要となり、そのための維持管理費を負担していただく形です。何卒、ご理解とご協力のほど、よろしく申し上げます。お問い合わせは上記の電話番号まで。

のっていきましょ、
 京都のええとこ。



清水寺
 森小路けい子・音天生



京阪電車お客さまセンター ☎06-6945-4560 ※お掛け間違いのないようお願いします。
 [平日]9時~19時 [土休日]9時~17時 ※12月30日~翌年1月3日は休業

おけいはん

おけいはん 検索
 www.okeihan.net